

「手入力データの退避→復活の手順」

J P法株価分析システムには、オリジナルデータを手入力していけば、それをチャート表示出来る機能があります。

例えば、商品先物のデータや、米原油先物、米10年債とか何でもです。

これらのデータは、毎日の株価受信には入ってこないものです。そのため手入力データを蓄積していく。そうするとチャートで表示出来る。といった具合です。

この手入力データの事をオリジナルデータと呼びます。

しかし、このオリジナルデータもデータの再インストールなどをすると、当然元々入っていませんから、消えてしまいます。

※実際には残っていますが、ソフト上からは見えないので、なくなったとしています。

ではデータの再インストール後でのこれらオリジナルデータを残して、再びチャートで表示させるにはどうしたらいいのでしょうか？

今回はその事について解説します。

例としてコード1140にNT倍率を手入力している。とします。

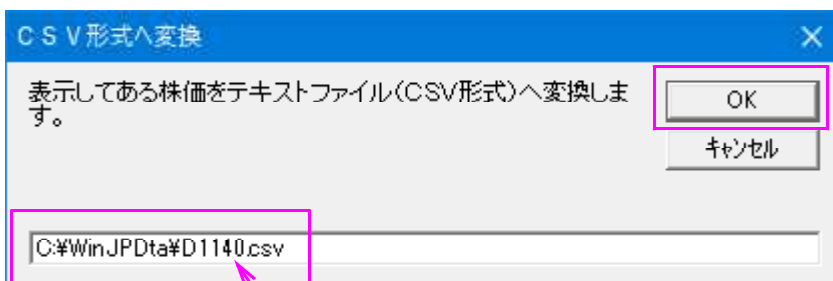
まず、データを再インストールする前に、オリジナルデータを保存します。

「株価修正」をクリックし、1140を表示させます。

続けて、「CSV」をクリックします。

日付	始値	高値	安値	終値	出来高	権利落
2021/12/29	14.461	14.461	14.461	14.461	14.461	0
2021/12/30	14.454	14.454	14.454	14.454	14.454	0
2022/01/04	14.434	14.434	14.434	14.434	14.434	0
2022/01/05	14.385	14.385	14.385	14.385	14.385	0
2022/01/06	14.265	14.265	14.265	14.265	14.265	0
2022/01/07	14.268	14.268	14.268	14.268	14.268	0
2022/01/11	0	0	0	0	0	0
2022/01/12	0	0	0	0	0	0
2022/01/13	0	0	0	0	0	0
2022/01/14	0	0	0	0	0	0
2022/01/17	0	0	0	0	0	0
2022/01/18	0	0	0	0	0	0
2022/01/19	0	0	0	0	0	0
2022/01/20	0	0	0	0	0	0
2022/01/21	0	0	0	0	0	0
2022/01/24	0	0	0	0	0	0
2022/01/25	0	0	0	0	0	0

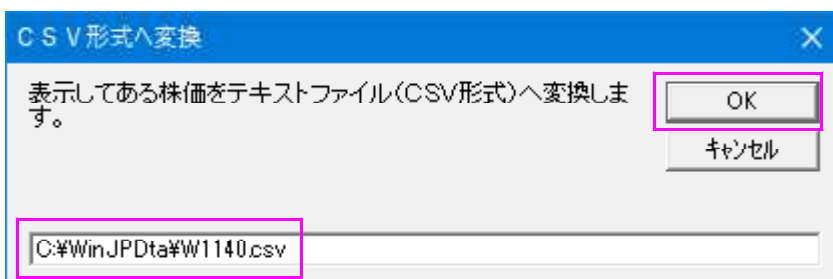
下記の表示となります。このままOKをクリックします。



ここに記されている意味は、1140 NT倍率の日足データを [C:\WinJPDta] フォルダの [D1140.csv] というファイルに書き出しなさい。という内容です。

次は週足です。「週足」をクリックし、データが表示されたら「CSV」をクリックします。

日付	始値	高値	安値	終値	出来高	権利落
2021/10/24	14.388	14.388	14.388	14.388	14.388	0
2021/10/31	14.439	14.439	14.439	14.439	14.439	0
2021/11/07	14.509	14.509	14.509	14.509	14.509	0
2021/11/14	14.508	14.508	14.508	14.508	14.508	0
2021/11/21	14.546	14.546	14.546	14.546	14.546	0
2021/11/28	14.485	14.485	14.485	14.485	14.485	0
2021/12/05	14.316	14.316	14.316	14.316	14.316	0
2021/12/12	14.399	14.399	14.399	14.399	14.399	0
2021/12/19	14.388	14.388	14.388	14.388	14.388	0
2021/12/26	14.486	14.486	14.486	14.486	14.486	0
2022/01/02	14.454	14.454	14.454	14.454	14.454	0
2022/01/09	14.268	14.268	14.268	14.268	14.268	0
2022/01/16	0	0	0	0	0	0
2022/01/23	0	0	0	0	0	0
2022/01/30	0	0	0	0	0	0
2022/02/06	0	0	0	0	0	0
2022/02/13	0	0	0	0	0	0



週足データは[C:\¥WinJPDta]フォルダの[W1140.csv]というファイルに書き出されます。
同様に月足です。

日付	始値	高値	安値	終値	出来高	権利落
2020/11/00	15.062	15.062	15.062	15.062	15.062	0
2020/12/00	15.204	15.204	15.204	15.204	15.204	0
2021/01/00	15.292	15.292	15.292	15.292	15.292	0
2021/02/00	15.54	15.54	15.54	15.54	15.54	0
2021/03/00	14.933	14.933	14.933	14.933	14.933	0
2021/04/00	15.181	15.181	15.181	15.181	15.181	0
2021/05/00	15.008	15.008	15.008	15.008	15.008	0
2021/06/00	14.811	14.811	14.811	14.811	14.811	0
2021/07/00	14.352	14.352	14.352	14.352	14.352	0
2021/08/00	14.324	14.324	14.324	14.324	14.324	0
2021/09/00	14.509	14.509	14.509	14.509	14.509	0
2021/10/00	14.439	14.439	14.439	14.439	14.439	0
2021/11/00	14.431	14.431	14.431	14.431	14.431	0
2021/12/00	14.454	14.454	14.454	14.454	14.454	0
2022/01/00	14.268	14.268	14.268	14.268	14.268	0
2022/02/00	0	0	0	0	0	0
2022/03/00	0	0	0	0	0	0

OKをクリックします。

月足データは[C:\¥WinJPDta]フォルダの[M1140.csv]というファイルに書き出されます。

ここでは、上述のフォルダ、ファイルを使っていますが、ご自身で別なフォルダ、そしてファイル名で保存する事も出来ます。

同じパソコンへデータを再インストールするのであれば、初期値のフォルダ、ファイルで構いません。

[C:\¥WinJPDta]を削除する。または別なパソコンへ入れる場合には、USBメモリを指定し保存されて下さい。

さて、ここまでの手順で1140NT倍率の日足、週足、月足データが保存、つまり回避出来ました。

次はデータの再インストールです。

当会からのデータCDをインストールします。

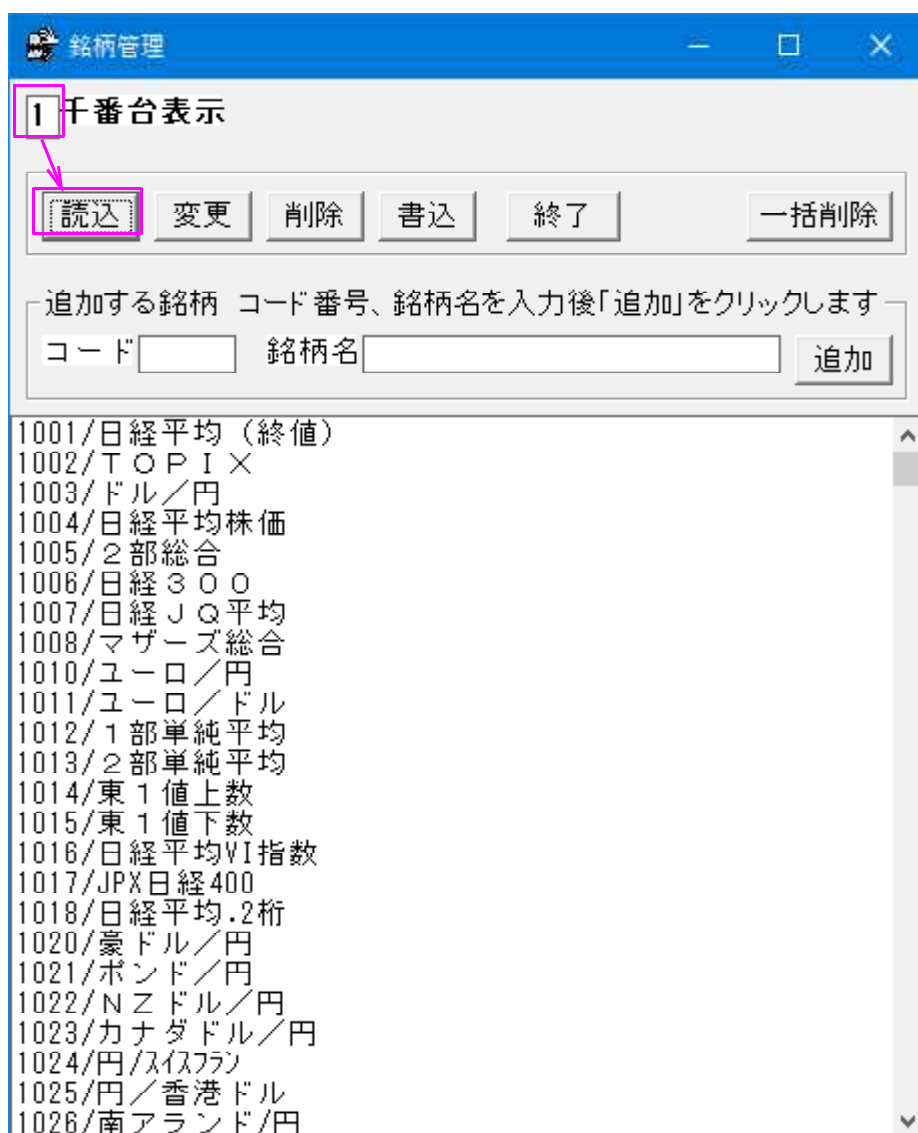
データが上書きされましたので、1140NT倍率はなくなっています。

次にする事は、まず1140NT倍率の枠を作成する事です。

J P法株価分析システムでオリジナルデータを作成するためには、銘柄の枠を作らないと出来ません。

そのために、「銘柄管理」をクリックします。

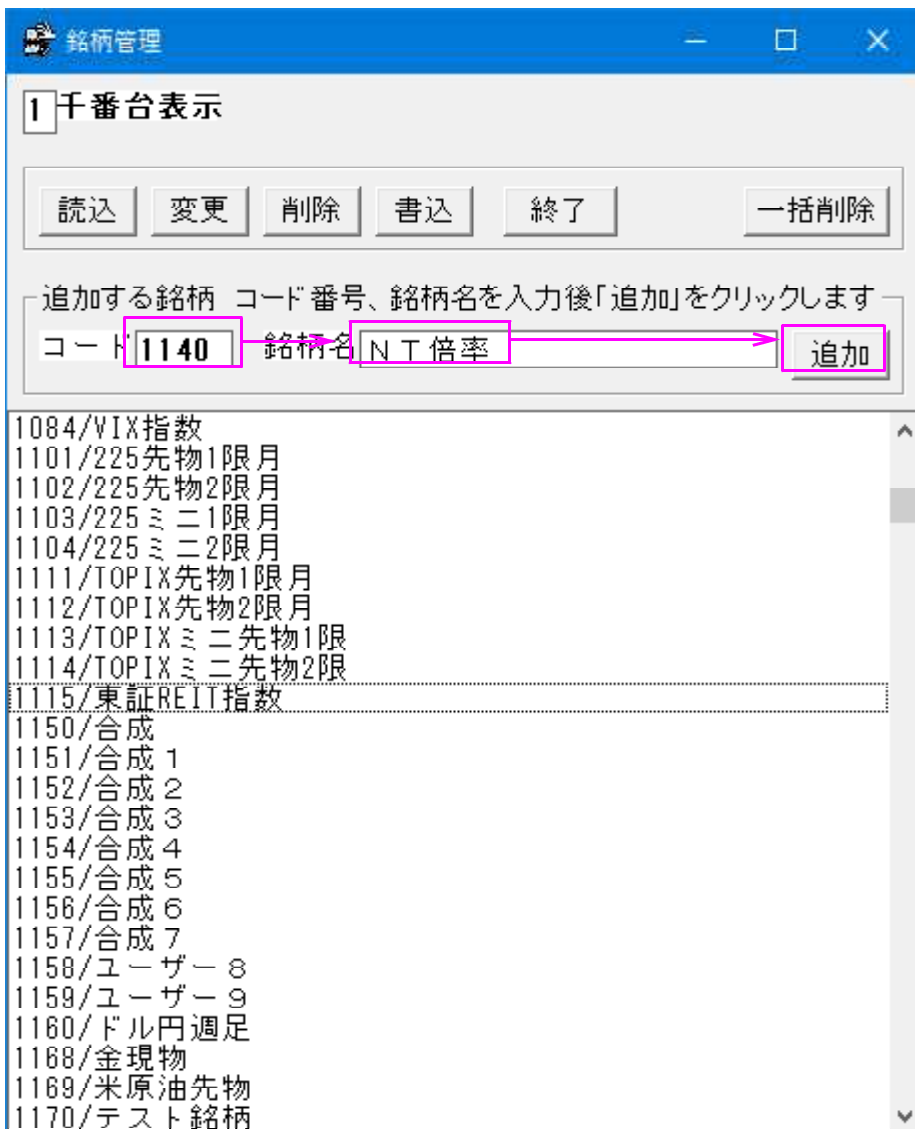
1000番台を表示させます。「1」と入力し、「読込」をクリックします。



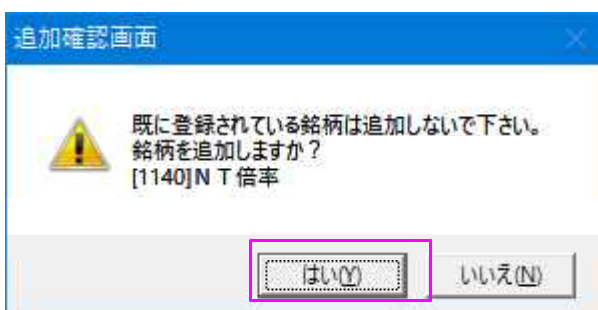
下にスクロールし、1140NT倍率がないことが分かります。

では追加していきましょう。

コードに1140を銘柄名にNT倍率を入力し、「追加」をクリックします。



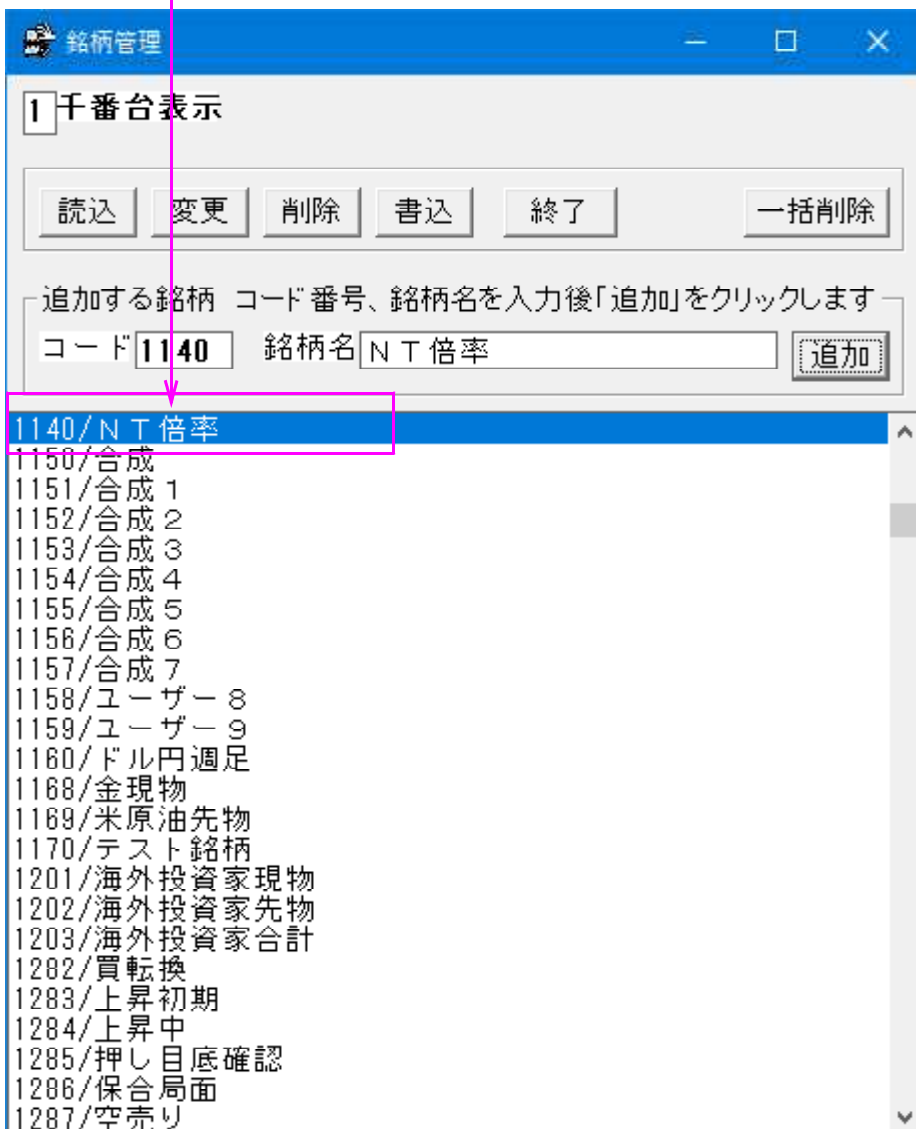
「はい」をクリックします。



OKをクリックします。



このように追加された事が分かります。



ここまでの手順で1140NT倍率の枠が作成されました。

次は、先に保存（退避）した日足、週足、月足のデータをセットします。

もし、保存（退避）していなかったら、ここからは株価修正で手入力していかないといけません。とても大変な作業となります。

では、JP法株価分析システムにオリジナルデータを戻していきましょう。

「テキストファイル変換」をクリックします。

まずは、日足から戻します。

読み込みフォルダ+ファイル名にC:¥WinJPDta¥D1140.csvと入力します。

書き込み先銘柄コード番号に 1140

書き込み種別は「日足」を選択

ここまでセットしたら、「実行」をクリックします。



テキストファイル—株価データ

読み込みフォルダ+ファイル名 C:¥WinJPDta¥D1140.csv

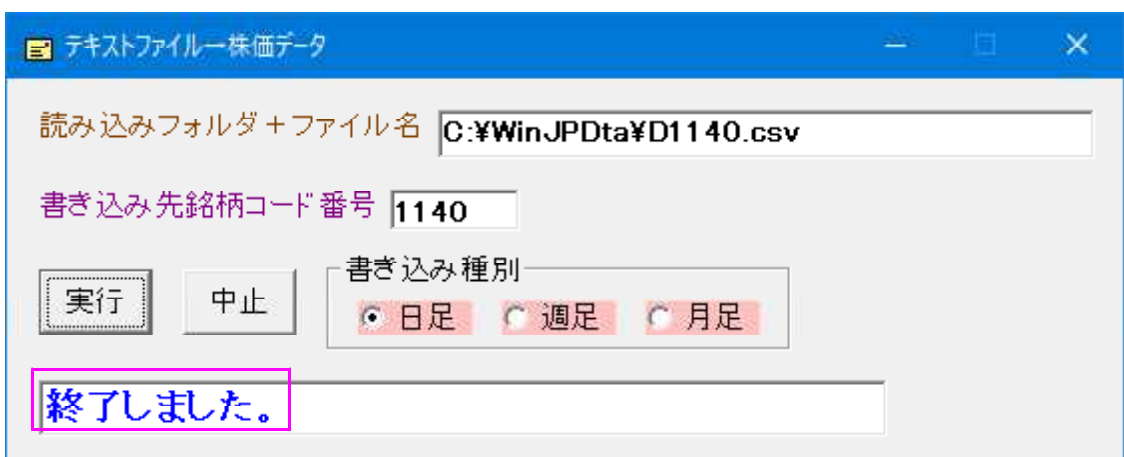
書き込み先銘柄コード番号 1140

書き込み種別

日足 週足 月足

実行 中止

瞬間的に処理は終了します。



テキストファイル—株価データ

読み込みフォルダ+ファイル名 C:¥WinJPDta¥D1140.csv

書き込み先銘柄コード番号 1140

書き込み種別

日足 週足 月足

実行 中止

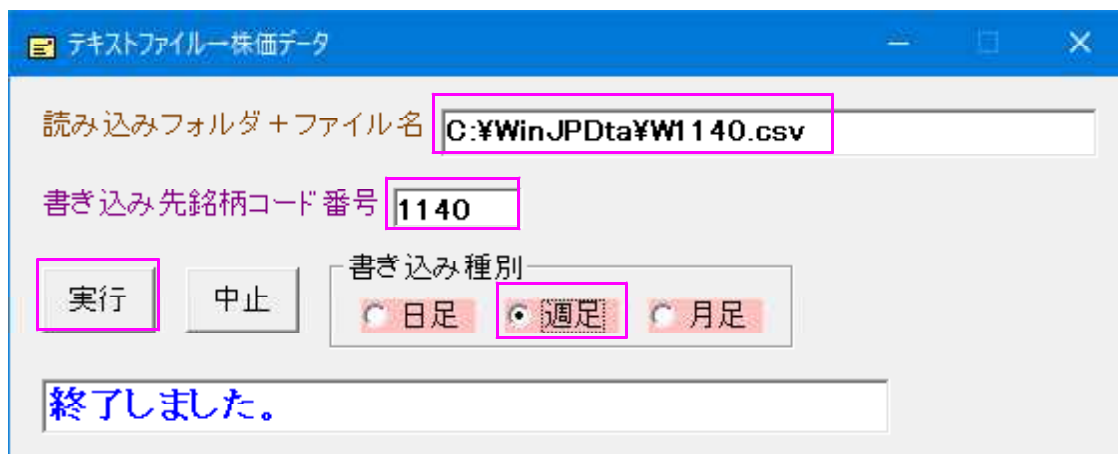
終了しました。

次は週足です。

読み込みフォルダ+ファイル名にC:\¥WinJPDta¥W1140.csvと入力します。

書き込み種別は「週足」を選択

そして「実行」をクリックします。



見た目、変化はありませんが、処理は終わっています。

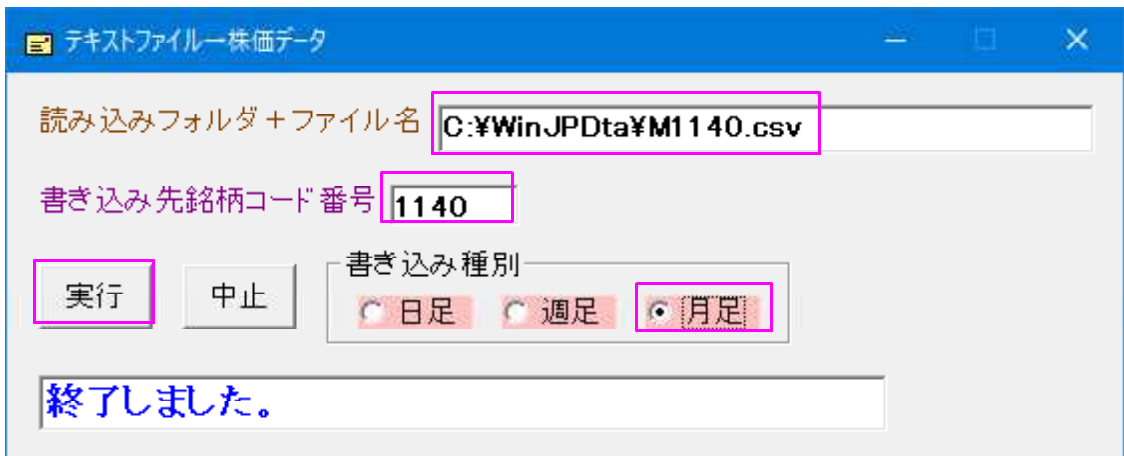


次は月足です。

読み込みフォルダ+ファイル名にC:\¥WinJPDta¥M1140.csvと入力します。

書き込み種別は「月足」を選択

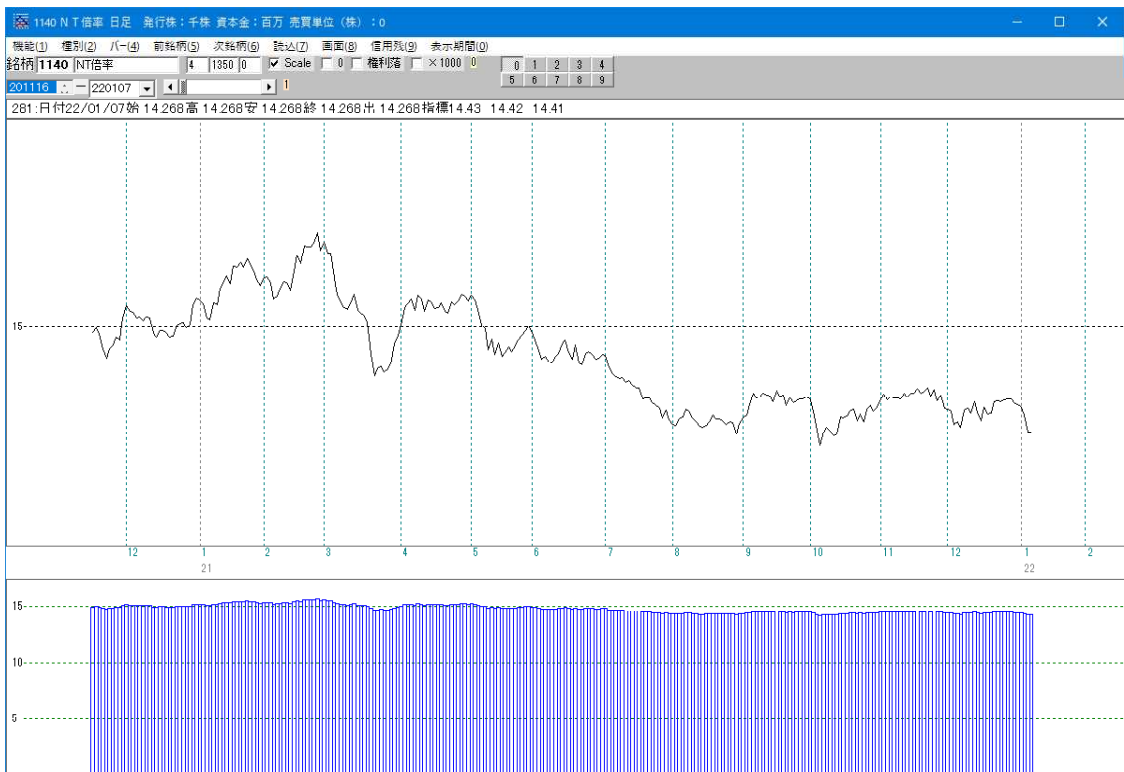
そして「実行」をクリックします。



これで1140NT倍率にデータを戻す事が出来ました。

株価修正や分析チャートで確認します。

指標97. 星足で表示



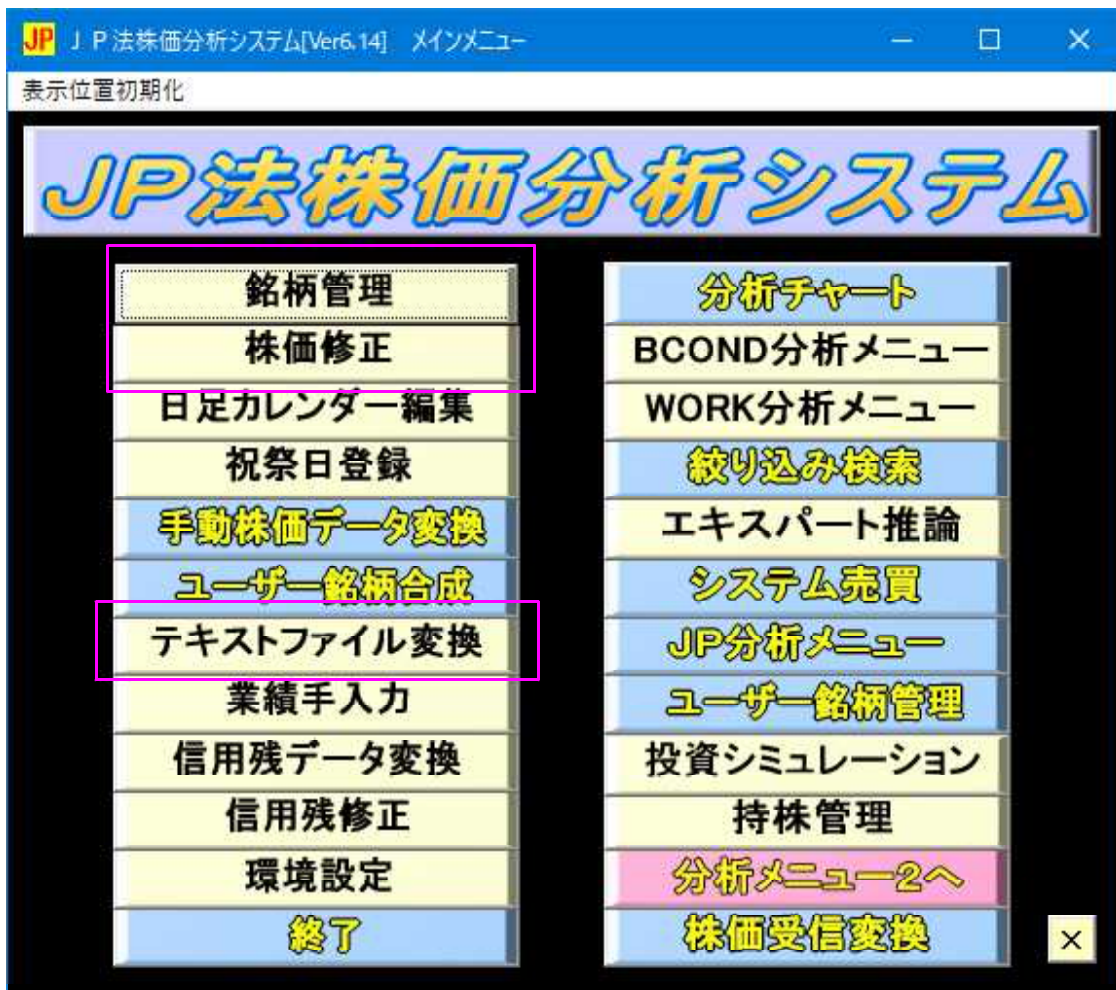
いかかでしたでしょうか。

この一連の流れを覚えておけば、データを再インストールしてもオリジナルデータを復活する事が出来ます。

是非、ご活用下さい。

今回の手順で使う機能は、

「銘柄管理」、「株価修正」、「テキストファイル変換」です。



—* 後書き *—

何を手入力するか・・・？

毎日の資産状況、証券口座の損益を手入力していてもいいでしょう。

また、株に関係する事でなくても構いません。

気温とか、競馬のデータとかです。

えっ？と思われるかもしれません。。わたしもそう思いました。

ずーっと前に競馬のデータを手入力し、テクニカル指標で分析している。と言われました。すごく驚いた記憶があります。

どう入力していたのかは、分かりませんが・・・。